



忍川の 流れ

忍川は昭和55年から護岸の改修や堤防のかさ上げ、川底の浚渫など、多自然型工法や親水機能を取り入れた河道整

備を進めているが、ヘドロ等の堆積やマコモやヨシの繁殖による川床の上昇が見受けられる。貯留断面を阻害している。貯留断面を阻害している。貯留断面を阻害している。

答 取水停止の迅速化は必要と考えており、行田市土整備事務所や武蔵水路連絡協議会へ水位基準の見直しを要望し、一刻も早い取水停止要請ができるよう要望している。しかし、未改善となつているので引き続き強く要望したい。

答 現在整備中の緑町排水機場を含めて市内7カ所に排水機場を整備している。さらに、流域貯留浸透事業として小・中学校・高校合わせて11校の校庭に貯留浸透機能を持たせた雨水流出抑制に取り組んで

問 7月19日の集中豪雨では市内8カ所で出水被害があつたと聞いている。これらは河川の氾濫によるものでなく雨水排除が限界に達して起こつた内水氾濫の水害である。近年ゲリラ的に発生する集中豪雨が多くなつており、今後も内水氾濫が起こる可能性は高い。出水対策の状況とともに想定する雨量とはどのくらいなのか。また、内水氾濫の影響を反映した洪水ハザードマップの作成は考えているのか。

水害対策

**内水氾濫の対策を**

松本安夫  
(黎明21)

また、内水氾濫の影響を反映したハザードマップの作成については武蔵水路改築事業により内水排除が強化されることから考えていないが、既存の洪水ハザードマップは緊急時の避難等で活用できるものと考えている。

問 行政の役割とは、(今後市が計画の)セカンドブック事業として子どもたちに本をプレゼントすることなのか。成長するにつれ本の選択も子どもによって異なる。公共の役割とは子どもたちが興味関心のある本をそれぞれが読めるように環境整備することである。学校図書館の図書購入費を充実させ、児童生徒の読書活動の援助となる司書や、当面はその役割を果たせる図書整備員を配置すべきではないか。

学 校

**セカンドブック事業が必要か**

三宅盾子  
(まちを住みよくする会)

また、内水氾濫の影響を反映したハザードマップの作成については武蔵水路改築事業により内水排除が強化されることから考えていないが、既存の洪水ハザードマップは緊急時の避難等で活用できるものと考えている。

問 本市も防犯灯や街灯をLED電球へ移行させるための推奨情報を提供しているが大幅な移行には繋がっていない。その理由として自治会の負担が大きすぎることが挙げられる。

防 犯

**防犯灯のLED電球化について**

柿沼貴志  
(黎明21)

答 ボランティアで図書整理を通して子どもたちと本に親しむ関係づくりに努めている。

問 ボランティアではなくて、市として、図書整備員をきちんと配置すべきではないか。

都市整備

**都市基盤の整備について**

高橋弘行  
(しんりよく会)

問 防犯灯設置に対する補助額はどの程度増額されるのか。また、防犯灯のLED電球への移行に関する長期的な本市の考え方は。

答 防犯灯設置に対する補助額はLED防犯灯の新設のみを対象とすることとし、現行の補助額に自治会の負担増分となる1万円を上乗せし、独立式を2万5000円に、共架式を2万円にしようとするものである。